

平成27年度京大病院臨床懇話会を開催

地域医療との連携推進

平成28年2月7日、「平成27年度京大病院臨床懇話会」が芝蘭会館で開催され、学内外から106名の参加がありました。同懇話会は、地域医療との連携を推進するため、地域で活躍されている医師等の先生と京大病院診療科長等との意見交換及び京大病院からの情報提供の場として開催しているものであり、今回で19回目となります。

今年度から 動画で公開



あいさつを行う稲垣京都大病院院長



出席者代表あいさつを行う西芝蘭会理事

「未来拓く」テーマに講演

当日は、稲垣暢也病院長及び芝蘭会理事の西医院 西 祥太郎院長のあいさつのおと、新任の妹尾浩教授(消化器内科学)、福島光夫特定教授(先制医療・生活習慣病研究センター)、からそれぞれあいさつ・講演があり、続いて、宮本享教授(副病院長/脳神経外科科長)から「新南病棟について」と題して京大病院報告がありました。

その後、「未来を拓く京大病院 Part2」を全体テーマに、日本バプテスト病院 尼川龍一病院長の座長のもと、齋藤成達助教(循環器内科)から「ハイブリッド手術室における循環器領域の集学的治療」、荒川芳輝助教(脳神経外科)から「新規導入した術中3T-MRI・移動型CTを用いた外科治療」、杉田

尚子特定病院助教(精神科神経科)から「地域とつながる精神科医療・救急医療から回復期まで」についてそれぞれ講演があり、続いて、「京大病院の地域連携における受入れシステムについて」をテーマに、松田秀一教授(副病院長/整形外科科長)の座長のもと、齋藤

平成28年度の受章者

春の叙勲

瑞宝中綬章

奥田 拓男 (昭26年薬学科卒) 岡山大学名誉教授

中野 勝磨 (教室会員 解剖I) 三重大学名誉教授

第188号
発行所
一般社団法人 芝蘭会
京都大学医学部同窓会
〒606-8315
京都市左京区吉田近衛町
TEL 075-751-2713
FAX 075-752-4015
E-mail: info@shirankai.or.jp
http://www.shirankai.or.jp

主な内容

- ② 退任あいさつ
- ③ 退任あいさつ
- ④ 芝蘭会評議員会・理事会
- ⑤ 校友会・KMS・FUNDだけり
- ⑥ 支部だより 静岡 滋賀 愛媛
- ⑦ 人事異動・会員計報

情報交換、活発に

第13回 京大病院 iPS細胞・再生医学研究会 一般・学術・特別の3講演



京大病院 iPS細胞・再生医学研究会の
開会あいさつを行う稲垣病院長



特別講演を行う
京都大学 iPS細胞研究所 戸口田副所長



研究会終了後の情報交換会であいさつを行う
京都大学 iPS細胞研究所 山中所長

1月28日(木)に、京大病院 iPS細胞・再生医学研究会を芝蘭会館に於いて開催しました。同研究会は、京大病院における iPS細胞、ES細胞及び体性幹細胞などを用いた再生医学研究の向上並びに成果の普及を図り、医療の発展に貢献することを目的として平成21年11月に発足したものです。

第13回目となる今回の研究会では、学内外から150名を超える医療関係者等が参加しました。研究会では、稲垣暢也病院長の開会あいさつ後、小美濃 邦男氏(第一三共株式会社 医薬営業本部 マーケティング部)より「高血圧診療における家庭血圧測定の意義」について一般講演が行われました。また、高橋 淳副所長(京都大学 iPS細胞研究所)より「iPS細胞を用いたパーキンソン病治療に向けて」について、吉田 善紀 講師(京都大学 iPS細胞研究所 未来生命科学開拓部門)より「合成RNAを用いた心筋細胞の新しい細胞選別法とその臨床への応用」について、高橋 克准教授(京都大学医学部 附属病院 歯科口腔外科)より「再生創薬を目指した歯科口腔外科疾患の分子生物学的解析」について、学術講演が行われました。

引き続き、戸口田 淳也 副所長(京都大学 iPS細胞研究所)より「iPS細胞を活用した難治性疾患の病態解明・創薬」について特別講演が行われ、参加者は熱心に聞き入っていました。

また、研究会終了後に開催された情報交換会では、山中 伸弥 所長(京都大学 iPS細胞研究所)のあいさつ後、参加者間における活発な情報交換が行われ、大変有意義なものとなりました。

退任あいさつ

基礎医学講堂再建に感激

メディカルイノベーション センター特命教授 湊 長博



平成4年に医学研究科教授に就任後、本年3月をもって何とか無事にその任を終えることができた。4半世紀にわたる在任中は芝蘭会の皆様から中西重忠教授とともに暖かいご支援とご協力をいただきました。これを、まずは感謝申し上げます。昭和50年に本学医学部を卒業、米留学後関東に職を得ましたが、突然の呼び出しで約1年間間...

「オンリーワン」の精神で

大阪府済生会 三嶋 理晃 野江病院院長



私は1977年に京都大学医学部を卒業しました。1986年に赴任先の兵庫県立塚口病院から、当時の京大胸部疾患研究所のスタッフとして戻ってきてからちょうど30年が経ちました。そして、2001年に呼吸器内科教授を拝命してから15年経ちました。人生の約半分を京都大学で過ごし、さらにその半分を教授として過ごしたことになります。

がん治療などに力を注ぐ

日本赤十字社 和歌山医療センター 平岡 真寛



本年3月31日をもって京都大学大学院医学研究科を退任しました。学生時代を含めると35年、教授在職期間だけでも21年間という長きにわたって京都大学には大変お世話になりました。この間、多くの方々にいただきましてご厚情に深くお礼申し上げます。三つお礼申し上げます。一つは、芝蘭会の皆様の大きなご支援で基礎医学記念講堂(旧解剖講堂)の修復再建ができたことです。突然の呼びかけにも拘わらず、3カ月余りの間に必要資金を寄附いただいたことは望外の喜びでした。この記念すべき瀟洒な講堂は、さらに何十年もこのキャンパスで機能し続けることとして、改めて、芝蘭会の皆様に感謝いたします。

臨床研修システム深化を

婦人科学産科学教授 小西 郁生



研究・教育はめざましい発展をとげ、世界のトップクラスまで到達できました。ご指導や共同研究をいただきました皆さまと素晴らしい環境を与えていただいた医学研究科に心から感謝申し上げます。今後、基本領域の専門研修については、中心となる基幹施設とこれに協力する複数の連携施設が病院群を形成して研修プログラムを立ち上げ、専攻医は自ら希望するプログラムを選び、専攻医を支援するようお願いします。さて、ご存じのように、2017年から新たな専門医研修制度が開始されることがとなり、皆さまもその準備を鋭意進めておられることと存じます。今後、基本領域の専門研修については、中心となる基幹施設とこれに協力する複数の連携施設が病院群を形成して研修プログラムを立ち上げ、専攻医は自ら希望するプログラムを選び、専攻医を支援するようお願いします。さて、ご存じのように、2017年から新たな専門医研修制度が開始されることがとなり、皆さまもその準備を鋭意進めておられることと存じます。今後、基本領域の専門研修については、中心となる基幹施設とこれに協力する複数の連携施設が病院群を形成して研修プログラムを立ち上げ、専攻医は自ら希望するプログラムを選び、専攻医を支援するようお願いします。

京大ならではの経験

感覚運動系外科学講座
眼科学教授

吉村 長久



本年3月31日をもちまして、眼科学教授を退職することとなりました。在職中は、公私に亘り格別のご厚情を賜り、厚く御礼申し上げます。

私は昭和52年の卒業です。ほぼ40年の年月を眼科医として過ごしてきたことになりました。この間にいくつもの大きな治療・研究のエポックを経験しました。白内障手術の進歩、硝子体手術の導入と大きな発展、そして黄斑疾患治療の進歩といった眼科特有の進歩もありました。分子生物学の眼科診療への導入、イメージング技術の応用など、他診療科・他領域から始まった大きな変革も



平成 28 年度事業計画などが承認された
芝蘭会評議員会・理事会
(芝蘭会館別館)

経験しました。

このように専門とする領域の進歩を肌で感じることは、大変に嬉しいことです。京大では、単に学問の進歩を感じるだけでなく、その進歩を自ら作ることが出来ます。実際、12年間の在職中にいくつもの課題について、教室から重要な情報発信して、学問の進歩に貢献することが出来ました。取り分け、眼底イメージングを用いた網膜硝子体疾患の病態解明、加齢黄斑変性の研究、緑内障の病態研究は、いずれも眼底を徹底的に観察するという京大眼科の良き伝統に立脚した仕事になりました。

大きなプロジェクトも経験することができました。一つは、「京都大学・キヤノン協働研究プロジェクト」(CKプロジェクト)で、もう一つは、臨床研究総合センターの流動プロジェクトに採択

された「新規神経保護剤による難治性疾患の開発研究」です。CKプロジェクトは、新しいイメージング機器開発を行うとともに、京都大学にその教育・研究の拠点を形成することが大きなミッションです。10年間という長い期間に亘って、工学研究科、情報学研究所、薬学研究所の先生方と、またキヤノンの研究者と協働して大きなプロジェクトに携わることが出来ました。このCKプロジェクトは、平成27年度をもって予算措置は終了しましたが、教育・研究の拠点はこれからも京都大学に存続します。

流動プロジェクトは、生命科学研究所との共同研究から始まったもので、京大オリジナルの新規薬剤の医師主導試験がもうすぐスタートします。このプロジェクトを通して、新しい医療を生み出すことが大変な困難

を伴うことを実感しました。しかし、何とかその困難に立ち向かえる力強いサポーターが現れるのも京大の有り難いところ

に恵まれた的興奮を味わえる幸せな時間を過ごすことができました。改めてお礼を申し上げます。

4月からは、公益財団法人田附興風会医学研究所北野病院院長代行として、新しい仕事に取り組みることになりました。北野病院は、芝蘭会と深いつながりをもつ病院です。今後とも、芝蘭会の先生方のますますのご指導、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

り、そのような医療の変革を見据えた組織改革の立案の為に人間健康科学系、医学研究所、附属病院、社会健康医学など芝蘭会の多くの先生方に親身に相談に乗って頂き、平成27年末に附属病院との連携を強化した「ビッグデータ科学」「緩和医療科学」「このころの健康科学」「臨床研究を含めた高度専門職の大学院」などを含めた構想を立案しました。この段階

で、芝蘭会の先輩の橋本信夫理事長が率えられる国循から、平成30年度の国循から、平成30年度の移動で循環器疾患予防・治療・研究拠点として生まれ変わるので、私の本来の専門の生活習慣病部門の動脈硬化・糖尿病内科への異動の話を頂き、専攻長として組織改革の責務があるのかをかなり考え、相談させて頂きました。最終的に医学研究科長と附属病院院長のご推薦を頂き、異動させて頂き、組織改革を京大小児科出身の足立壯一現専攻長と執行部をはじめとする人間健康科学系の先生方にお願ひさせて頂きました。

国循の動脈硬化・糖尿病内科は部長不在7年であったので、私は現在、診療・研究の体制、国循の病院、更に私自身が事務局を務めた文科省新学術領域「食欲と脂肪蓄積」の代表の寒川賢治研究所長率いる研究所と有機的な連携を再構築しています。ホームページ「新しい国循について」(http://www.ncvc.go.jp/special)のように国循は、吹田市のJR東海道本線岸辺駅近傍への移動により、脳・心血管疾患の予防と治療に挑む世界的な健康・医療拠点、京都大学をはじめとする大学や企業との共同研究のオープンイノベーションによる医療クラスターの形成を目指しています。私は国循の生活習慣病部門長として、日本における循環器疾患の主に長期的な予防の点から、責務を果たしていく所存です。

芝蘭会の皆様には、医学研究科及び人間健康科学系在職時における数々の御指導、御厚情に感謝申し上げますと共に、今後、国循において、御指導、御助言、御支援を心からお願ひ申し上げます。

生活習慣病の発症重症化予防

国立循環器病研究センター
生活習慣病部門長
動脈硬化・糖尿病内科部長

細田 公則



理事長)の国循理事長就任に伴い、2月から動脈硬化・糖尿病内科、高血圧・腎臓科、予防健診部から成る生活習慣病部門の部門長を併任しています。

平成20年7月に京都大学大学院医学研究科内分

泌代謝内科学講師から人間健康科学系専攻教授に就任し、自身が属する臨床看護学講座に任和子附属病院看護部長、緩和ケア看護のバイオニアの田村恵子主任看護課長(がん専門看護師)、天谷真奈美国立看護大学校に教授として就任頂き、平成24年度から人間健康科

学系副専攻長として、医学研究科、医学部附属病院と人間健康科学系の連携を推進しました。平成25年度からの文科省国立大学改革により、京都大学人間健康科学系は「先端医療の開発と臨床実践で世界トップレベルの研究、研究者養成」を目指した組織改革を行う事になり、平成27年度から人間健康科学系専攻長として執行部の先生方と共に取り組みました。高齢化社会を含めたグローバルの社会の変化と、急速でダイナミックに進歩する科学技術などを受けて、医療は急速に変化してお

さる9ポイントにすること等の説明が行われ、後任の理事の選任を行うための選挙日程及びそれに伴う規定の二部改正案について、説明があり、承認された。

議案(3)については、第4回芝蘭会代議員選挙の実施について、説明が行われ、審議の後、異議なく承認された。

議案(4)については、芝蘭会会員名簿の作成について、名簿の軽量化を図るため、活字の大き

事業計画など5議案承認

芝蘭会評議員会・理事会

平成28年3月26日(土)芝蘭会館別館に於いて芝蘭会評議員会および理事会が開催された。

議案は、(1)平成28年度事業計画及び収支予算について、(2)役員

(理事)の選任について、(3)第4回芝蘭会代議員選挙の実施について、(4)芝蘭会会員名簿の作成について、(5)その

事業計画(案)及び収支予算(案)について説明があり、原案どおり承認された。

議案(2)については、理事の西祥太郎氏から辞任の申し出があり、一般社

団法人芝蘭会役員及び評議員選任規定」第7条により、後任の理事の選任を行うための選挙日程及びそれに伴う規定の二部改正案について、説明があり、承認された。

議案(3)については、第4回芝蘭会代議員選挙の実施について、説明が行われ、審議の後、異議なく承認された。

議案(4)については、芝蘭会会員名簿の作成について、名簿の軽量化を図るため、活字の大き

さる9ポイントにすること等の説明が行われ、後任の理事の選任を行うための選挙日程及びそれに伴う規定の二部改正案について、説明があり、承認された。

「京都大学医学部記念講堂・歴史資料館基金」募金の現状

平成 28 年 5 月 25 日 (水) 現在
・「三井住友銀行」利用のご寄付
310 人 (法人を含む)
56,290,000 円
うち、50 万円以上のご寄付は 56 人 (法人を含む)
・「ゆうちょ銀行」利用のご寄付
251 人
5,967,000 円
うち、50 万円以上のご寄付は 2 人
計 561 人 (法人を含む)
62,257,000 円

芝蘭会会員名簿(72回・2016年版)の刊行について

会員登録の確認調査(7月送付予定)にご協力ください

会員の皆さまには益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。さて、本年は芝蘭会会員名簿の刊行の年にあたり、平成28年11月末の刊行に向けて編集作業を進めております。つきましては、今回、会員の皆さまの「会員名簿調査確認書」(郵便はがき)及び、会員名簿購入申込用紙等をお送りさせていただきます。(7月送付予定)
会員名簿は、芝蘭会活動を活発化し、また、会員相互の親睦と交流を深めるためには、必要不可欠のものであり、名簿掲載内容の充実が求められます。それには、会員の皆さまのご支援、ご協力がぜひとも必要であります。また、芝蘭会会員名簿の販売は芝蘭会員、賛助会員及び広告掲載企業に限らせていただいております。会員間の交流を図るためにも余程のご事情がない限り名簿掲載にご協力いただき、前記「会員名簿調査確認書」を、必ず芝蘭会事務局へご返送くださいますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。
平成 28 年 5 月

一般社団法人 芝蘭会
会長 上本 伸二

芝蘭会費納入は自動振替で

平成 17 年度より芝蘭会費の納入方法として、「銀行口座等からの自動引き落とし」を採用させていただいております。会費納入のお手間が大幅に省かれ、また、会費の二重払いの防止にもつながります。ぜひ、ご利用いただきたくお願い申し上げます。

手続き等については、**芝蘭会事務局**
(TEL 075-751-2713)
までお問い合わせください。

京都大学医学部 校友会・教育研究支援基金 (KMS-FUND) だより

特色入試合格者を支援

国際交流支援金創設へ



KMS-FUND
委員長
社会疫学 教授
木原 正博

事務局
〒606-8501
京都市左京区吉田近衛町
京都大学大学院医学研究科・
医学部 管理棟 1F 総務掛内
Tel.075-761-2467
Fax.075-752-1528
Mail-Address:
kyoto-kms-fund@office.
med.kyoto-u.ac.jp

ています。

平成28年の京都大学医学部教育研究支援基金(KMS-FUND)委員会の委員長を拝命した社会疫学分野(社会健康医学系専攻)の木原正博と申します。昨年度から委員を務めてはおりますが、発足(平成19年)から10年目に入ったこの基金の活動を、他の委員共々(別表参照)さらに発展させたいと心新たにしているところでです。

私の学生時代には、老朽化した建築しかなかった医学部キャンパスは、その面影をわずかに旧解剖学講堂に残すのみで、芝蘭会館や見事な植栽も含めまさに別世界の観があります。その中で、学生会館と、最近竣工したばかりの煉瓦造りの医学プラザ(棟)は、学生共用施設であるというその特異性で異彩を放ち、それがこのKMS-FUNDによるものであることに、基金の面目躍如たるものがあります。創設に努力された諸先輩の慧眼と基金を支えていただいた関係者の皆様方のご厚意に心から御礼を申し上げます。

目的は、「医学部、医学研究科における学生の学習や研修活動などの教育支援、大学院生の研究活動などの研究支援を、主目的とし、加えて、クラブ活動、健康管理、奨学金、表彰などの教育研究支援を目的とする」(管理規則第2条)ことにあります。その趣旨に添い、これまでの歴代の委員の努力で、平成26年までに、若手研究者優秀論文賞(KMYIA)・毎年優れた論文を出版した学生・大学院生数名を顕彰)の創設、立派な学生会館(総工費3億円)の整備を行い、平成27年にはさらに、新たな学生共用施設として、エクステリアも美しい医学プラザを完成させ、また、学生の臨床実習を支援するために、臨床実習助成金を創設し、5回生全員に一定額を支援することとしました。

平成28年は、これらの事業を継続するとともに、少なくとも新たに二つの事業・活動を計画しています。

一つは、MD研究者育成助成金で、これは、医学部が本年度入試から導入した、特色入試(推薦型)に合格した学生を入学時から経済的に支援する制度で、当該学生はこの助成を経て、MD、PhDコースという、研究者養成に特化したプログラムに進むこととなります。

もう一つは、国際交流支援金の創設です。現在要項を作成中ですが、長年、基金の活動目標として掲げられていた、国際交流支援を充実化することを目的とするものです。最近、学生の中に、国際交流に積極的な新しい動きが生じており、それを支援したいと考えています。重きを置きたいのは、学内での留学生や外国人教員と、日本人学生・大学院生との交流と共同企画であり、自然で日常的な交流を促進することによって、お互いの文化や言語を学び合い、また学習や研究を助け合うような環境が生まれれば、京都大学医学部・医学研究科の教育研究環境は、施設やプログラムといたって外形的なものだけではなく、さらに内実の充実も促進できるのではないかと期待しています。こうした、ゆとりある活動を実施できるのも、KMS-FUNDという自

度度の高い基金が存在するからであり、それをいかに有効に使うかが、委員会の使命であることを改めて肝に銘じたいと思います。

お陰様で、基金総額は、4億円(寄付者数は、1995名)に達しました。皆様の支援に改めて心から感謝申し上げます。しかし、京都大学医学部・医学研究科を、さらなる世界的な教育研究の高みに導くためにも、欧米の大学に匹敵するような基金規模を目標に掲げたいと思っております。引き続き、芝蘭会、校友会他、皆様方のご支援を心からお願ひ申し上げます。宜しくお願い申し上げます。

度度の高い基金が存在するからであり、それをいかに有効に使うかが、委員会の使命であることを改めて肝に銘じたいと思います。

お陰様で、基金総額は、4億円(寄付者数は、1995名)に達しました。皆様の支援に改めて心から感謝申し上げます。しかし、京都大学医学部・医学研究科を、さらなる世界的な教育研究の高みに導くためにも、欧米の大学に匹敵するような基金規模を目標に掲げたいと思っております。引き続き、芝蘭会、校友会他、皆様方のご支援を心からお願ひ申し上げます。宜しくお願い申し上げます。

KMS-FUND 設立の

平成28年 KMS-FUND 委員会委員

委員長	社会疫学 教授	木原 正博
	腫瘍生物学 教授	小川 誠司
	循環器内科学 教授	木村 剛
	腎臓内科学 教授	柳田 素子
	消化管外科学 教授	坂井 義治
	臨床認知神経科学 教授	十一 元三
	大学院教育コース 教授	陣上 久人
	芝蘭会 事務局長	山田 均
	医学研究科 事務長	川口 泰史

卒業生代表あいさつ

自由と調和の精神忘れず

水野 良佑

本日、私たち卒業生のためにこのような素晴らしい祝賀会を催して頂き、誠にありがとうございます。ここに無事卒業の日を迎えられましたことを大変嬉しく思います。また、お忙しい中、列席下さった諸先生方、並びに御来賓の皆様、卒業生一同、心より御礼

光陰矢の如く、この6年間は本当に駆け抜けるように過ぎていきま

興味の芽を摘まず、我々の可能性を思う存分伸ばすことが出来る素晴らしい環境であると、今では身に染みて感じています。また、ただ自由を謳歌することをよしとせず、社会の員として最低限の規範の下、地域社会への貢献を目指す姿勢も、病院実習などを通じて学びませた。実際、平成13年に制定された京都大学の基本理念には、「京都大学は、創立以来築いてきた自由の学風を継承し、発展させつつ、多元的な問題の解決に挑戦し、地球社会の調和ある共存に貢献するため、自由と調和を基礎に、ここに基本理念を定める。」とありま

京都民医連中央病院 初期研修医 石井 慧

細胞内の活性酸素を処理するために利用されること

膝関節痛で松田教授講演



浜松で開かれた静岡支部総会

【静岡】

平成27年10月3日、ホテルクラウンパレス浜松にて平成27年度芝蘭会静岡支部総会が催されました。総会は静岡市立静岡病院の島本光臣先生の開会の辞にはじまり、物故会員への黙祷、総会報告、会計報告と順次すすめられました。

その後の講演では、浜松労災病院の有井滋樹先生（司会）のもと、京都大学医学部附属病院から整形外科の松田秀一教授をお招きし、「医学研究科・医学部の現況」「膝関節痛のマネジメント」の順でご講演いただきました。

「医学研究科・医学部の現況」の中では、まず新任の教授紹介をはじめとする運営体制の動向について述べられた後、現在京都大学で行われている教育改革の取り組みについて強調してお話され、1回生のための外国人講師による生物学講義、5回生から

の年齢を重ねることによる退行性変化と膝にかかる力学的負荷とが原因となつて膝関節の腫脹と疼痛をきたす疾患で、その治療の方向性としては原因を取り除く、進行を阻止する、人工関節でサポートする、といったものがあります。

初期の治療は減量や膝に悪影響の行動をしないよう注意する、といった生活指導が中心となり、減量によつて全身性の炎症が軽減することや5kg体重が増加すること人工関節が必要となるリスクが10〜20%ほど増加するということが研究からわかっているそうです。従来の薬物治療としては消炎鎮痛薬やステロイド、ヒアルロン酸注入などがありますが消炎鎮痛薬については内服による副作用の問題や外用で十分な効果があるのかという問題があり、ステロイドはあまり推奨されておらずヒアルロン酸についても効果があるのかの研究結果は様々なよう

です。次に新しい薬物治療についてですが、グルコサミンやコンドロイチンのサプリメント摂取は短期的に効果があるとの研究結果もありますが長期効果や適切な投与方法が依然わかっていません。スタチンはサイトカイン抑制作用があるとされ膝関節痛の予防効果も現在期待されています。オピオイドも除痛効果は確かにあるのですが機能改善効果はあまりなく、またオピオイドによるふらつきが原因で人工関節の術後成績が低下するという研究

もあるようです。幹細胞が元の関節の動きとどれだけの一致させられているのかをシミュレーションにより検討し術後の違和感や痛みを減らすといった試みもなされているといった話がなされました。膝関節痛といえど再生に膨大な時間と細胞数が必要という欠点もあり、現在 iPS 細胞由来の軟骨細胞を用いたの研究が予定されているようです。人工関節置換術についても関節周囲多剤カクテル療法による術後の疼痛管理の大幅な改善や、トランエキサム酸を関節内に注入することで出血量を減らすなどといった細やかな工夫の積み重ねで術後の患者さんの状態を少しでも良くできるような努められていることや、最近では人工関節の動き

が元の関節の動きとどれだけの一致させられているのかをシミュレーションにより検討し術後の違和感や痛みを減らすといった試みもなされているといった話がなされました。膝関節痛といえど再生に膨大な時間と細胞数が必要という欠点もあり、現在 iPS 細胞由来の軟骨細胞を用いたの研究が予定されているようです。人工関節置換術についても関節周囲多剤カクテル療法による術後の疼痛管理の大幅な改善や、トランエキサム酸を関節内に注入することで出血量を減らすなどといった細やかな工夫の積み重ねで術後の患者さんの状態を少しでも良くできるような努められていることや、最近では人工関節の動き

医学部教育改革など報告



大学報告等などが行われた滋賀支部総会

【滋賀】

平成27年10月17日(土)、ホテルニューオウミにて、芝蘭会滋賀支部総会が開かれました。

総会では、物故者を偲び黙祷が捧げられた後、支部長の折田雄一先生に

よるあいさつがあり、今年も当会を開催できる喜びの意を伝えられました。現在の京都大学医学部校舎の様子についても触れられ、芝蘭会員の寄附によって記念講堂や学生会館の改築を遂行できた

【愛媛】

平成27年10月17日、伊予鉄会館にて、京都大学医学部芝蘭会愛媛支部総会が開かれました。

支部長報告のあと、京都大学大学院医学研究科発達小児科学教授で、副院長、iPS細胞臨床開発部部長の平家俊男先生より、「小児免疫疾患の新局面」という演題で

特別講演会が催されました。以下、この講演の簡潔な要約です。

小児の不明熱を鑑別するうえで、自己炎症性疾患という疾患が、近年脚光を浴びているそうです。不明熱の鑑別でまず大切なことは、感染症ではないか、自己免疫性疾患ではないか、腫瘍性疾患ではないか、を見極める

ことだそうですが、それに加えてこの自己炎症性疾患を疑う、ということだそうです。

自己炎症性疾患とは、自然免疫系にアクセルがかかりすぎてしまう疾患だそうで、インフラマームが活性化され、カスパーゼが活性化され、炎症性サイトカインであるIL-1βが過剰につくられてしまう、というのがメカニズムです。この疾患は遺伝性で、発熱、腹痛、皮膚、関節の症状などを呈し、代表的な疾患としては、家族性地中海熱というものがあるそうです。

平家先生がおっしゃっていたことには、まだまだ周知されていない疾患なので、各医師が、疾患の典型例を知る、遺伝子検査を考慮する、そして疾患の見逃しを疑う、ということが大切だそうです。

その後、記念写真の撮りを経て、懇親会が開かれました。ご在席の先生が15人前後と比較的小規模に参加させていただきました。ありがとうございました。ご報告をおわらせていただきます。

今回、この愛媛支部総会に参加させていただきました。大先輩から医師としてのお話をたくさん聞くことができ、とても勉強になりました。こうして愛媛支部総会は惜しまれながらも開きとなりました。

今回、この愛媛支部総会に参加させていただきました。大先輩から医師としてのお話をたくさん聞くことができ、とても勉強になりました。こうして愛媛支部総会は惜しまれながらも開きとなりました。

小児疾患で平家教授講演



特別講演が催された愛媛支部総会

【滋賀】

平成28年度から学部入試に「特色入試」が導入される予定であり、医学研究者としての

京都大学医学部は現在いくつもの教育改革に取り組んでおります。その一つとして、新入生を対象としたセミナーが医学教育推進センターにより行われていて、新入生が大学生活をより充実したものにするための助けになっています。

また、平成28年度から学部入試に「特色入試」が導入される予定であり、医学研究者としての

京都大学医学部は現在いくつもの教育改革に取り組んでおります。その一つとして、新入生を対象としたセミナーが医学教育推進センターにより行われていて、新入生が大学生活をより充実したものにするための助けになっています。

また、平成28年度から学部入試に「特色入試」が導入される予定であり、医学研究者としての

（文責：3回生 朴剛史）

人事異動

Table with columns: 発令年月日, 氏名, 異動内容. Lists personnel changes including appointments and resignations for various departments.

Table with columns: 発令年月日, 氏名, 異動内容. Lists personnel changes including appointments and resignations for various departments.

会員訃報 (敬称略) 謹んでご冥福をお祈りいたします。

Table listing deceased members with columns for name, birth date, and death date.

芝蘭会事務局
総務課長 山田均
事務局長 秋山和美
管理課長 浜崎康博

芝蘭会報編集委員会
委員長 高折晃史
委員 斎藤信雄, 岩田征良, 豊國伸哉, 山田圭介, 園部誠, 阿部恵, 顧問 高折晃史, 芝蘭会雑誌部 部長 高折晃史, 部長 森山太陽, 赤垣未宝, 大植啓史, 小杉大輔, 坂本慧, 宮崎規晶, 阪原宏規, 西川裕生, 高屋龍生, 西川裕太, 中田愛, 井上大生, 梅本大地, 井上大志, 菅原聡真, 朴剛史, 蔡嗣錡, 以上4回生, 吉平智博, 以上4回生, 加古敦也, 松本一希, 谷本将崇, 以上2回生

原稿募集

芝蘭会報は、会員の皆様の情報交換・意見発表の場です。支部活動、クラス会、会員の著書の紹介(自薦・他薦)及び医学・医療等に関するご意見等を寄稿ください。なお、原稿の採用及び掲載時期については、編集委員会でご決定させていただきます。芝蘭会報 編集委員会

●事務局から●

平成17年4月からの「個人情報保護法」の全面施行により、個人情報の取り扱いに厳しい制約が課せられました。つきましては会員の連絡先等のお問い合わせは、必要理由等を明記の上、郵便またはFAXにより事務局までご送付ください。電話でのお問い合わせにはお答え致しかねますのでご了承ください。(FAX 075-752-4015)